



大國主命

おおくにぬしのみこと

みなさんは大黒さま（大國さま）という神さまを知っていますか。大きな袋を肩に担いで幸せそうに笑っている愉快なお姿をみたことがあるでしょう。その大黒さまの本名はお名前は大國主命といいます。命は八岐大蛇を退治なさった須佐之男命の六代目の子孫で、幼い頃からとても優しい神さまでした。大國主命には、五つの名前があります。このことは、このほか優れた働きをされるということです。

大地の力を満身にたたえるという意味を持つ「大穴牟遲神」。この地上で最も強い心と体を持ち勇氣があるという「葦原醜男神」。たくさん武器を持っていてどんな敵とも闘えるという「八千矛神」。山や川や草や木や生き物すべてに宿り地上にあふれる生命の花を咲かせるという「宇都志国玉神」。そして、ばらばらであったこの国を初めて一つにしてお治めになった「大國主命」。

出雲大社を始め多くの社に祀られ、草木と人々と大地とを、見守り続けている大國主命。いったいどんな試練に耐えて、命は成長され立派な神さまになり、この国を造られたのでしょうか？

*「大黒さま」と「大國さま」

本来は別々の神様である。大黒天はもとはインドの神様で、中国を通じて日本に伝わった。その音が「大國」と通じることから同一視されるようになった。